

令和4年度第2回奈良市環境審議会の概要			
開催日時	令和5年3月2日(木) 14時から16時まで		
開催場所	奈良市役所北棟4階402会議室		
出席者	委員	前迫委員、小松原委員、中澤委員、野末委員、当麻委員、細谷委員、清水委員、東浦委員、廣岡委員、小林委員 【計10人出席】	
	事務局	【環境部】矢倉部長、前田参事 【環境政策課】穴尾課長、石飛係長、村井主務、島 【(株)エックス都市研究所】 大阪支店 青野環境エンジニアリング事業本部技師長 中部事務所 嶋影所長、宮浦研究員	
開催形態	公開(傍聴人 1人)	担当課	環境部 環境政策課
議題 又は 案件	1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗について 2 第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画の実績について 3 「奈良市の環境(令和4年版)」について 4 「奈良市の環境(こども版)[令和4年版]」について 5 奈良市ゼロカーボン戦略策定について		
決定又は取り纏め事項	1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗について事務局より報告があった。 2 第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画の実績、冊子「奈良市の環境(令和4年版)(案)」及び「奈良市の環境(こども版)[令和4年版](案)」について事務局より説明を行った。改善点等についての意見があった。 3 奈良市ゼロカーボン戦略策定について事務局とエックス都市研究所より説明があった。		
<b>議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等</b>			
1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗について ・奈良市環境基本計画推進会議座長の小松原委員及び事務局より、今年2月に開催された第2回環境基本計画推進会議の進捗について、資料を基にその概要の報告を行った。  2 第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画の実績について 3 「奈良市の環境(令和4年版)」について 4 「奈良市の環境(こども版)[令和4年版]」について ・案件2～4までを資料に基づいてまとめて事務局より説明した。			

- ・小林委員より、第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画の19ページについて国と県市の減少割合に若干の差がみられると表記があるが、若干の差ではなく、大きな差ではないだろうか。国と県市の差が生まれている要因としては、地域特性や産業構造による違いなのか、国よりも県市が努力しているのか、どちらだと捉えているのか、と質問があった。
- ・事務局より、この要因は産業構造の違いが大きいと考えている、と回答した。
- ・前迫委員より、産業構造の違いが要因と捉えているのであれば、追記いただく方が良いのではないかと、との意見があった。
- ・当麻委員より、電力係数を固定した場合のグラフがあることにより、省エネ・創エネで排出量が減っていることは分かり評価できるが、ゼロカーボンを目指すためには更なる省エネ・創エネを推進すべきだと感じる、との意見があった。
- ・中澤委員より、代替フロン等4ガスの中にある「六フッ化硫黄」と「三フッ化窒素」は、かなり危険な気体となっており外気に触れてはならないと思っているが、実際に大気中に出ているのだろうか、と質問があった。
- ・事務局より、代替フロン等4ガスとして4ガスまとめて推計しているように見えるが、実測値ではなく、製造の過程に出ていると思われる数値を「ハイドロフルオロカーボン」のみ推計している、と回答をした。
- ・前迫委員より、実際に大気中に出ているとしたら危険な気体ということであれば、実測でなく推計である旨の記載は必要となってくるのではないかと。他の行政の資料等では注釈で書いてあるのか、と質問があった。
- ・事務局より、他の行政の資料等を確認し、適正に表記することを検討する、と回答した。
- ・前迫委員より、地域実行計画実績報告書p21のとおり公式を示すのであれば、分かりやすくするために「44」や「12」の数字がCO<sub>2</sub>やCの分子量であるという説明を表記した方が良く、との意見があった。
- ・当麻委員より、「奈良市の環境」は、110ページと膨大な資料となっており、市民向けではないため、資料編を別にする、もしくは、A3一枚程度でサマリーを付けて分かりやすくすべきである。また、第3次奈良市環境基本計画を策定したのであれば、奈良市の環境も環境基本計画に併せて構成を変更すれば、進捗管理も兼ねることが出来るのではないかと、との意見があった。
- ・事務局より、来年度以降の変更を検討する、と回答した。

## 5 ゼロカーボン戦略策定について

- ・事務局より、令和5年6月にパブコメを実施し、最終的に令和5年9月頃に奈良市ゼロカーボン戦略を策定予定であるとスケジュールについて、説明を行った。
- ・エックス都市研究所より、奈良市ゼロカーボン戦略（案）について、内容を説明した。
- ・細谷委員より、あちこちにソーラーパネルを設置することで著しく景観を損ねるとともに、生物多様性に相当影響がある。22ページに、景観を無視したり、生物多様性への悪影響などを与えていたりするような「望ましくない事例」も入れてはどうか、との意見があった。
- ・東浦委員より、山の斜面に設置している例もあるが、土砂崩れなども発生し、下の村の方へ土砂が流れているような悪い事例もある、との意見があった。

- ・前迫委員より、自然環境と両立しながら、奈良市の環境特性や文化・歴史や自然を次世代に残してゼロカーボンを実現するというのは難しいが、それに対する工夫やポイントはどのような点か、という質問があった。
- ・エックス都市研究所より、資料で示した太陽光発電のポテンシャルは、既に使われている土地や建物などの活用が可能なところを推計しており、新たに山を切り開くというようなところはポテンシャルとしては扱っていない。資料の中では、各再エネ種別による特徴とメリット・デメリットについて記載しているとともに、「再エネ基本方針」についても記載しており、豊かな自然環境や歴史・文化等の破壊につながらないような再エネ導入を行う旨を記載している、と回答した。
- ・前迫委員より、奈良市らしさをここに込めたという点や、力を入れたというところはどこか。また奈良市には人工林だけでなく里山林的なものもあるが、奈良市の土地利用に関する分析は既にされているのか、という確認があった。
- ・エックス都市研究所より、第3次産業でのエネルギーの利用が大きいというところを奈良市の特徴としてとらえている。主なエネルギーは電力であり、使った電力を自分たちで賄っていくというストーリーの下、太陽光を中心とするのがよいのではないかと考えた。また森林吸収源には間伐等の適切な管理が必要であることから、森林吸収源の整備という記載をしている、と回答した。
- ・細谷委員より、奈良市の土地利用図とポテンシャルマップのすり合わせをすれば、奈良の実情や特性を活かした計画になるのではないかと、との意見があった。
- ・前迫委員より、ソーラーパネルのメリット・デメリットを分析された上で、奈良市はどこまでいけるのかというところをもう少し見える化すると分かりやすい、との意見があった。
- ・前迫委員より、資料で太陽光発電を筆頭に様々な再エネが示されているが、それぞれの比率はどうか、また再エネ導入目標は奈良市を想定した数値か、について確認があった。
- ・エックス都市研究所より、数値は奈良市を想定して算出された導入目標である。一部まだ木質バイオマス・廃棄物バイオマスについては調整中だが、そのあたりを含め、何を優先して導入していくか、必要なエネルギー量の兼ね合いと比べながら検討している、と回答した。
- ・前迫委員より、風力発電も見込まれているが、生態系への影響や、いつか寿命が来るため、それをどう回収するかといった経済的な見込みも含めて数値は出されているのか、との質問があった
- ・エックス都市研究所より、今回はあくまでポテンシャルでの推計であり、経済的なところは個別詳細な調査が必要となる。ポテンシャルにはある程度制約や法規制も考慮されているが、景観的な配慮などは十分に把握できていない。どのような導入パターンが考えられるかを検討した上で、実際の導入にあたっては、住民の方や学識者の意見を伺うことも重要と考えている、と回答した。
- ・小松原委員より、奈良の産業特性との関わりで省エネ・再エネ導入をどのように考えるのか、また「その他サービス」の「その他」の部分に絞ることで、奈良市の特性をとらえることに繋がると思うがどう考えているか、との質問があった。
- ・エックス都市研究所より、「その他サービス」の詳しい内容については公表されていない

- め、もう少し調べさせて頂きたい、と回答した。
- ・前迫委員より、2023年から2030年までの間に中間見直しをどこかで入れるのか、またどのようなPDCAサイクルや見直しを考えているのかについて、事務局に確認があった。
  - ・事務局より、中間見直しは入れず、2030年までに世界や国において、何か大きな動きがあれば改訂を行う予定である。環境基本計画の下で具体的なプランとしてゼロカーボン戦略があるところで、今のところは既存の推進会議があるのと、資料にあるような推進体制を想定し、奈良市ゼロカーボン協議会を新たに立ち上げ、また検討していきたいと考えている、と回答した。
  - ・小林委員より、ポテンシャルというのはむしろ「人」であるということ認識しておかなければいけない。各主体がこの問題についてどう取り組むか、また特に利益相反するようなときに、どう調和を図っていくかという運営推進が大切であり、市としては情報公開や分かりやすい資料の提供、意見の調整、相互理解できるような場が重要となる。また、長いスパンの計画であるため、少なくとも5年毎には、迅速に修正や見直しができるようにすべきである、との意見があった。
  - ・中澤委員より、森林が二酸化炭素を吸収するとあったが、省エネにも役に立つということを考えるべき。計画では2030年の森林の二酸化炭素吸収量は今と全く同じになっているが、木1本植えるごとに税金を少し安くする等を行えば、その分省エネとなりエネルギーの消費量が減るのではないかと、との意見があった。
  - ・前迫委員より、単に森を増やせばよいのではなく、今滞りがちな間伐を積極的に行う等の必要が生じてくるが、そのために人をどう動かすというところまで踏み込んで行く必要があるのではないかと、との意見があった。
  - ・清水委員より、今回のゼロカーボン戦略のサブタイトルに「地球温暖化対策地域実行計画」とあるが、2030年のCO2の削減率50%を達成していくために、自治体で何をすべきかという地方公共団体実行計画の事務事業編と、住民・事業者が何をすべきかを決めていく地方公共団体実行計画の区域施策編の両方を含んでいるという理解でよいかという点について、事務局に確認があった。
  - ・事務局より、今回の戦略は区域施策編を包含するものであり、事務事業編は包含していない、と回答した。
  - ・清水委員より、資料にある温室効果ガスの排出量の現状について、報告書の数字と合っていないのはなぜか、との質問があった。
  - ・事務局より、新しい第3次の実行計画を含有するゼロカーボン戦略においては、推計方法の一部見直しを行っており、その旨を資料編に記載する予定である、と回答した。
  - ・前迫委員より、6月にパブコメを実施するため、お気づきの点があれば、事務局の方にお伝えいただきたい。ゼロカーボンの考え方としては理解したが、戦略や行動計画の点がまだ弱いのと、やはり地域特性をしっかりと踏まえて検討すること、そして実行可能性の点においては経済的なところも見据える必要がある。今日の委員からの意見を踏まえて更に磨いていただければありがたい、との意見があった。
  - ・事務局より、今年度の審議会は本日で最後となり、次回は来年度8月頃を予定している、と説明した。

<p>資 料</p>	<p>【参考資料】令和4年度第2回奈良市環境基本計画推進会議 報告書  【資料1】第3次奈良市環境基本計画指標評価シート（案）  【資料2】奈良市ゼロカーボン戦略策定スケジュール  【冊子】第3次奈良市環境基本計画 -概要版-  【冊子】「2022年度第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画実績報告書」（案）  【冊子】「奈良市の環境（令和4年版）」（案）  【冊子】「奈良市の環境（こども版）[令和4年版]」（案）  【冊子】「奈良市ゼロカーボン戦略」（素案）</p>
------------	---